

「彼らのサタンの世界観を暴くーH・シュランガー」(ビデオ) について

「サタンは宗教的概念であるだけでなく、科学的概念である」

Greatchain

2019/02/13

サイト SGT Report の一篇 “Their Satanic Worldview Exposed” で、Harley Schlanger はこう言っている：――

サタンの世界観は反人間的である。それは、人間は本質的に低いレベルの存在、または動物であって、ただ自分の直接的な要求、すなわち食欲、性欲、貪欲に動かされているだけであり、人はそれを利用して、彼らをコントロールできるのだと主張する。ところで、もちろん、それを提唱する人々は、現実には、動物的な要求だけに突き動かされている人々である。しかし**人類は無限に創造的である**。我々は、我々の創造者によって、**宇宙の神秘を理解できるような能力を備えた存在に創られている**。そして我々は絶えず、それらの神秘を解明しつつあり、人間の生きるための環境をより良くするために、それらを利用しつつある。

これはおそらく、日本以外の世界の各地では、特に自分をサタン教徒と自認する者でなければ、当たり前な考え方であるが、平均的日本人は、特にキリスト教を意識して生きている人々を除けば、**無意識の唯物論者として「サタンの世界観」によって生きている**。人間を下等動物と考えるダーウィン進化論が、「我々をコントロールできる」と考える、サタンの権力者によって、洗脳の道具として送り込まれたものであることを知らず、日本人の大多数は、この「サタンの世界観」が正しい科学だといまだに信じている。「宇宙の神秘」というものがある。それを少しずつ解明できる我々の能力は、その「神秘」の方向から与えられたものである。サタンは、そのこと(神へのつながり)を人間に気づかれないように、必死に我々を唯物論という牢獄に閉じ込めようとしている。それがやっとな突破されようとしている今、必死になって、サタン世界の協力をしているのが主流メディアである。そして、サタンがいると主張する者を嗤うのが、ほかならぬサタンである――「おいおい、サタンだとよ、こんなことを言う奴は科学者ではないと、嗤ってやろうではないか！」

私（とおそらくインタビュアーのショーン）が、最も気に入ったのは、このビデオの次の部分である：――

（ヒラリーの非人間的な墮胎の考え方に関して）ここで重要なことは、私は「サタンの」**Satanic**という言葉、科学的な概念として使うのであって、単に宗教的な概念としてではない。

これは私が、前から言ってきたことであって、サタンは単なる比喻でなく実体である。そして今、世界という舞台が回転している回転軸は、サタンという「純粹悪」であって、そこから否応なく「神」という実体が見えてくる。物理学の世界が「エネルギー」という概念を抜きにしては成り立たないように、今の世界を説明するのに、「サタン」という純粋な、善悪二極の一方を想定しなければ、説明できない。シュランガーの「反人間的」anti-humanという言葉がそれで、これは中途半端な「人間らしくない」という意味ではない。

先日掲載した「民主党の非常識な中絶新法が、〈子供の生贄〉だとして非難される」を読み直していただきたい。不思議ではないか？ なぜ民主党は、妊娠9か月の子供の中絶、つまり殺人ともいえる中絶にこだわるのだろうか？ ここには党としての打算が全くないようだ。そんな過激なことを言えば、普通の人間は眉をひそめ、党から離れるではないか？ にもかかわらず、あえてそれを主張するということは、彼らが党利党略より、純粋な悪を主張しているということである。これは、あなたの窓から見えるケムトレールについても言える。なぜ、他人だけでなく、自分も住む世界を住めなくするのか？ これには「彼らには立派な地下都市がある」という答えがあるかもしれないが、それでも、自分の世界を破壊することには変わりはない。やはりこれも、「純粹悪」または「悪のための悪」という答えしか出てこない。つまり反人間、人間敵視思想であり、それは即、神への憎悪である。我々はそういう者たちを相手にしていることを、忘れてはならない。

さらに、この若い上院議員が、大昔と全く変わらないと言って憤るのは、現在も行われている、強者の弱者に対する暴虐である。子供の生贄が行われた昔と同じく、今も、少数の権力者が、多くの人間の尊厳も自由も生命さえも、当然の権利のように奪っている。彼はその言葉を使っていないが、これはダーウィン進化論では「最適者の生き残り」といわれ、自然界の法則として、サタンの権力者はこれを利用してきた。ダーウィン進化論を信ずる者はなくなっても、ダーウィンの名は残さねばならない。これが、NHKの「ダーウィンが来た」という番組の、合わないタイトルに、彼らが執着する理由である。

最後に別件だが、現在の複雑なワシントンDC“戦争”について述べておきたい。おそらく

大多数の人々は、あのブッシュ葬儀の裏で起こった、謎の封筒事件の、その後の成り行きが気になっているだろう。国家反逆者や、子供取引・ペド犯罪者に対する軍事裁判は、着実に進行しているという情報は、いくつもある。トランプ大統領が、「数百の子供取引犯罪者が拘束されました」と集会で公表し、大喝采を受けた場面が、先日もあった。囚人用の大型船がグアンタナモへ、何度も往復しているという情報もある。しかし個人の大物については、おそらく戦略上の作戦も、故意の放置もあって、何か月か先まで、確実な発表はないのではなかろうか？

しかしその中でも、ジョージ・ソロスが、2月3日、スイスのある所で拘束され、その際、自殺しようとしたが未然に防いだという情報と、ジョン・マケインは肺門浮腫(?)で死んだのではなく、実は処刑だったという情報は、繰り返し聞くので確実だと思われる。また子ブッシュ大統領が、9・11の犯行を認め、拘束されているという情報も、確かなようである。その他、いくつかの個人名は聞くが、私には判断することはできない。